

東芝パッケージエアコン〈天井カセット形〉 据付説明書

<室内ユニット>

AIU-AP405H AIU-AP715H
AIU-AP455H AIU-AP805H
AIU-AP505H AIU-AP1125H
AIU-AP565H AIU-AP1405H
AIU-AP635H AIU-AP1605H

組み合わせ室外機はカタログをご覧ください。

<天井パネル：別売品>

RBC-U31PG(W) (標準パネル)
RBC-U31PG(C) (標準パネル)
RBC-U31PG(N) (標準パネル)
RBC-U31PG(K) (標準パネル)
RBC-U31PG(WS) (標準パネル)









<リモコン：別売品>

RBC-AMT32 (メインリモコン)
RBC-AX31U(ワイヤレスリモコンキット)

お知らせ

- このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系新冷媒（R410A）を使用しています。
- 本説明書は室内ユニット側の据付工事方法を記載してあります。
- 室外機の据え付けは、室外機に付属している据付説明書に従ってください。
- この室内ユニットは新冷媒（R410A）用です。室外機は必ず新冷媒（R410A）用と組み合わせてください。
- 天井パネルとリモコンは別売です。取り付けは、各別売品に付属している取付説明書に従ってください。
- ワイヤレスタイプは、ワイヤレスリモコンキット（別売品）を標準パネルに取り付ける仕様となります。
（ワイヤレスリモコンキットは、ワイヤレスリモコンと受信部付きアジャストコーナーキャップで構成されています。）
- 省エネメインリモコン RBC-AMS52 組み合わせの時は、リモコンに付属している据付説明書に従ってください。

付属部品

部 品 名	個数	形 状	用 途	部 品 名	個数	形 状	用 途
取 扱 説 明 書	1	—	(お客様に必ず渡してください)	ワ ッ シ ャ	4		ユニット吊り下げ用
保 証 書	1	—	(お客様に必ず渡してください)	偏 心 ワ ッ シ ャ	4		ユニット吊り下げ用
据 付 説 明 書	1	本紙	(お客様に必ず渡してください)	ホ ー ス バ ン ド	1		ドレンパイプ接続用
据 付 用 型 紙	1	—	天井開口と本体位置確認用	フ レ キ シ ブ ル ホ ー ス	1		ドレン配管芯出し調整用
据 付 ゲ ー ジ	1		天井位置決め用(据付用型紙と一体)	断 熱 材	1		ドレン接続部断熱用
断 熱 パ イ プ	2		配管接続部断熱用	断 熱 材	1		配線接続口シール用
結 束 バ ン ド	4		断熱パイプ固定用				

もくじ



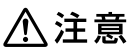


安全上のご注意	2
新冷媒エアコンの据え付けについて	2
据付場所の選定	3
1.室内ユニットの据え付け	4
2.ドレン配管	5
3.冷媒配管	6
4.電気配線	7
5.応用制御	9
6.試運転	12
7.故障診断	13
8.室内ユニット設定確認	15
9.フロン回収破壊法による冷媒充填量記載のお願い	15


◇お客様への引き渡し

- 「保証書」「取扱説明書」とこの「据付説明書」を必ずお客様に渡してください。
- 「保証書」には必ず所定の事項（★印箇所）をご記入のうえ、お客様にお渡しください。
- 「取扱説明書」の内容を十分ご説明のうえ、引き渡しをお願いします。


安全上のご注意

- お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための安全に関する重大な内容を記載しています。つぎの内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

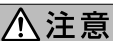
表示の説明	図記号の説明
 警告 “取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊１）を負うことが想定される内容”を示します。	 禁止 ○は、禁止（してはいけないこと）を示します。具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
 注意 “取り扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊２）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊３）の発生が想定される内容”を示します。	 指示 ●は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
＊１：重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。 ＊２：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。 ＊３：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。	 注意 △は、注意を示します。具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

**警告**


- 据え付け工事は R410A 用に製造された専用のツール・配管を使用し、この据付説明書に従って確実に行う**
使用している HFC 系新冷媒（R410A）は、従来の冷媒（R22）に比べ圧力が約 1.6 倍高くなります。専用の配管部材を使用しなかったり、据え付けに不備があると破裂・けが、また水漏れや感電、火災の原因になります。
- 据え付けは、販売店または専門業者に依頼する**
ご自分で据え付け工事をされると、水漏れや感電、火災の原因になります。
- 据え付け工事は、この据付説明書に従って確実に行う**
据え付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。



- 小部屋へ据え付ける場合は万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要**
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付けてください。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となります。
- 据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行う**
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け工事を行う**
据え付け工事に不備があると、転倒・落下などによる事故の原因になります。
- 据え付け工事中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行う**
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据え付け工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する**
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒータ、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。
- 電気工事（アース工事を含む）は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する**
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用し、確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する**
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。
- アースを必ず取り付ける**
法律による D 種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
- 据え付け作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取り付ける**
冷媒配管が取り付けられておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する**
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因になります。
- ダクトを設置する場合、ダクトが防火区画を貫通する場合は不燃材のダクトを使用し、防火・防災ダンパーを設ける**
火災の際、延焼の恐れがあります。

**注意**

- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける**
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。
- 据え付け作業のときは手袋（※）を着用する**
着用しないと部品などにより、けがをする原因になります。（※ 軍手などの厚手の手袋）



新冷媒エアコンの据え付けについて

このエアコンはオゾン層を破壊しない HFC 系新冷媒（R410A）を採用しています。

- R410A 冷媒は従来の冷媒に比べ圧力が約 1.6 倍高くなり、水分・酸化皮膜・油脂などの不純物の影響を受けやすくなります。また、新冷媒の採用に伴い冷凍機油も変更しており、据え付け工事のときに水分・ゴミ・従来の冷媒や冷凍機油などが新冷媒エアコンの冷凍サイクル内に混入しないよう注意が必要です。
- 冷媒や冷凍機油の混入を防ぐため、本体チャージ口や据え付けツールの接続部分のサイズを従来冷媒用と違えており、下記の新冷媒（R410A）用専用ツールが必要です。
- 接続配管はクリーンな新品の配管部材を使用し、水分・ゴミを混入させないよう施工してください。
- 既設配管を流用する場合は、室外機に付属の据付説明書に従ってください。

必要器材および取り扱い上の注意点

据え付け工事を行うために、下表に示す工具・器材を準備する必要があります。これらの中で新規に準備する工具・器材は、必ず専用品としてください。

記号の説明 ○：新規に準備（R410A 専用として R22・R407C と使い分けが必要） △：従来工具を流用可

使用する機器	用 途	工具・器材の使い分け
ゲージマニホールド	真空引き冷媒充填	○新規に準備、R410A 専用
チャージングホース	および運転チェック	○新規に準備、R410A 専用
チャージングシリンダー	冷媒充填	使用不可（冷媒充填ハカリによること）
ガス漏れ検知器	ガス漏れチェック	○新規に準備
真空ポンプ	真空乾燥	逆流防止アダプタを取り付ければ使用可
逆流防止付き真空ポンプ	真空乾燥	△R22（現行品）
フレアツール	配管のフレア加工	△寸法の調整で使用可
ベンダー	配管の曲げ加工	△R22（現行品）
冷媒回収機	冷媒の回収	○R410A 専用
トルクレンチ	フレアナットの締め付け	○φ12.7、φ15.9 用は専用
パイプカッター	配管の切断	△R22（現行品）
冷媒ポンベ	冷媒充填	○R410A 専用 識別：冷媒名記載
溶接機・窒素ポンベ	配管の溶接	△R22（現行品）
冷媒充填ハカリ	冷媒充填	△R22（現行品）

冷媒配管について

このエアコンの据え付けには、新冷媒対応のフレア方式配管キットを使用してください。

■新冷媒（R410A）用配管キットを使用する場合

新冷媒エアコンの発売に伴い、エアコンの据え付けに使用する配管キットには、配管の梱包箱に冷媒種・対応冷媒名・配管肉厚が表示されています。このエアコンの据え付けには、必ず、

冷媒種：2 種、対応冷媒名：R410A

と表示されている配管を使用してください。（適用冷媒種は、配管の断熱材被覆にも約 1m ごとに記号化して表示してあります。この表示が「◎」のものを使用してください）また、フレア加工、フレアナットも新冷媒（R410A）用のものが必要ですが、この表示のある冷媒配管キットでフレアナットが付き、フレア加工してあるものは、そのまま使用できます。

■新冷媒（R410A）用配管キットを使用しない場合

1. 従来の配管キットを使用する場合

- 適用冷媒種の表示のない従来の配管キットを使用する場合は、必ず、配管肉厚がφ6.4、φ9.5、φ12.7 は 0.8mm、φ15.9 は 1.0mm のものを使用してください。従来の配管キットで、配管肉厚が上記以下の薄肉配管は、耐圧強度が不足しますので絶対に使用しないでください。

2. 一般の銅管を使用する場合

- 銅管は JIS H 3300「銅および銅合金継目無管」の C1220 タイプで、内部の付着油量 40mg/10m 以下、配管肉厚はφ6.4、φ9.5、φ12.7 は 0.8mm、φ15.9 は 1.0mm のものを使用してください。上記以外の薄肉配管は、絶対に使用しないでください。

3. フレアナットおよびフレア加工

- フレアナット・フレア加工も従来冷媒用と異なります。フレアナットはエアコン本体付属のもの、または R410A 用を使用してください。
- フレア加工は「冷媒配管の接続」の部分をよく読み、加工してください。

据付場所の選定

⚠ 注意

可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。



エアコンの吹出口は火災報知器より 1.5m 以上離して設置する
火災発生時に火災報知器の作動が遅れる、または検出できない場合があります。



室内ユニットは冷・温風がムラなく循環する場所を選んでください。次のような場所はさけてください。

- 塩分（海岸地区）の多い場所
- 硫化ガス（温泉地区）の多い場所（銅管、ろう付け部が腐食する恐れがあります）
- 油を多量に使用する中華料理店などの調理場や、工場の機械設備の周辺（油が室内ユニットの熱交換器・電気ヒーターや樹脂部品等に付着して、能力の低下・霧吹きや露飛びの発生、ヒーターの故障・樹脂部品の変形や破損の原因になります。）
- 吹き出しの気流を乱す換気口や照明器具などの障害物が近くにある場所（気流の乱れにより、能力低下や機器の停止の恐れがあります。）
- 特殊用途（食品・動植物・精密機器・美術品の保存など）では使用しないこと。（保存物の品質等に損害の恐れがあります。）
- 金属粉などの粉塵が発生する場所には据え付けしないでください。金属粉などがエアコン内部に付着・堆積すると自然発熱することがあり、火災の原因になります。

- 高周波の発生する機器（インバータ機器、自家発電機、医療機器、通信機器）がある場所（エアコンの誤動作や制御の異常やそれら機器へのノイズによる弊害が生じる恐れがあります。）
 - 据え付けた下に、濡れては困るものがある場所（湿度 80%以上のときやドレン口が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じる恐れがあります。）
 - ワイヤレスタイプの場合、インバータタイプの蛍光灯がある部屋、また直射日光が当たる場所（ワイヤレスリモコンの信号を受け付けられないことがあります）
 - 有機溶剤を使用している場所
 - 液化炭酸冷却等化学プラントには使用できません。
 - ドアまたは窓の近くで高湿度の外気と接する恐れのある場所（結露する恐れがあります）
 - 特殊なスプレーを頻繁に使用する場所
- 建物の金属部とエアコン金属部との電気絶縁は電気設備技術基準（省令第 59 条、基準の解釈第 167 条 3 項）に従ってください。**

お願い

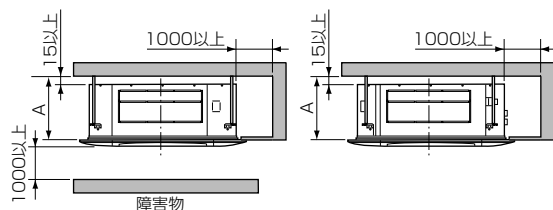
天井内の湿度が 80%を超えらる場合には、室内ユニット本体の側面と上面に断熱材を貼り付けてください。（断熱材は、厚さ 10mm 以上のものを使用してください。）

据付スペース

室内ユニットの据付及びサービスに必要なスペースを確保してください。
室内ユニットの天井と天井面との隙間は、15mm以上確保してください。

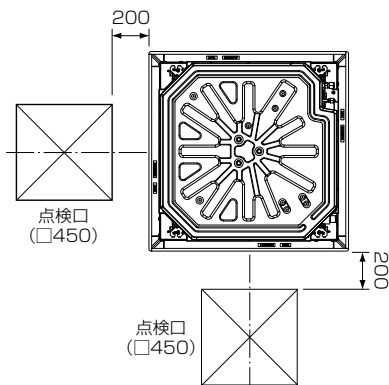
<据付スペース>

機種名 AIU-	天井ふところ高さ：Amm
AP40～AP80 形	271 以上
AP112～AP160 形	334 以上



<加湿器（別売品）組み込みの場合>

別売の加湿器を組み込むときは、組み込んだ側に必ず点検口を設置してください。



天井高さ

機種名 AIU-	据付可能天井高さ
AP40～AP80 形	3.8m まで
AP112～AP160 形	4.6m まで

天井高さが下表の標準 / 4方向の距離を超える場合は、温風が床面まで届きにくくなるので、高天井設定または吹き出し方向の変更が必要になります。

また、別売品のフィルターを組み込む場合も高天井設定が必要になります。

高天井設定方法は、本紙9ページの応用制御『別売フィルターを組み込む場合』『高天井据え付けの場合』をご覧ください。

据付可能天井高さ一覧表

（単位：m）

機種名：AIU-	AP40～AP63形			AP71～AP80形			AP112～AP160形			高天井設定
吹出方向	4方向	3方向	2方向	4方向	3方向	2方向	4方向	3方向	2方向	設定データ
標準（出荷時）	2.8	3.2	3.5	3.0	3.3	3.6	3.9	4.2	4.5	0000
高天井①	3.2	3.5	3.8	3.3	3.5	3.8	4.2	4.4	4.6	0001
高天井③	3.5	3.8	—	3.6	3.8	—	4.5	4.6	—	0003

お願い

- 2方向・3方向吹出で使用される場合、天井の高さが標準より低いと直接強い風が当たりますので、天井の高さに合った設定に変更してください。
- 4方向吹出にて高天井①、高天井③を使用した場合には、吹出温度低下によりドラフト感を感じやすくなります。
- P50クラス以下機種にて高天井対応する場合には、なるべく3方向または2方向吹出にしてご使用ください。

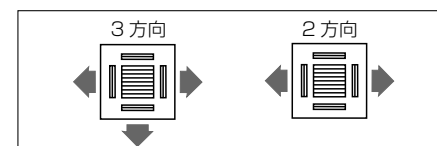
据え付ける条件に応じて、リモコンのフィルターサイン（フィルター清掃のお知らせ）の点灯する時間の設定変更ができます。

また、据付場所や部屋の構造などでどうしても暖まりにくい場合には、暖房の検出温度を上げることができます。

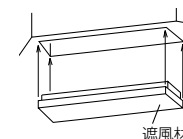
設定方法は、本紙10ページの応用制御『フィルターサイン点灯時間の変更』『暖房効果をよりよくするために』をご覧ください。

吹出方向

使用する部屋の形や、据付位置にあわせて下図のように吹出方向の数を選ぶことができます。



- 吹出方向を変更する場合は、遮風材キット（別売品）を使用して変更します。
吹出方向には制限がありますので遮風材キットに付属の取付説明書に従ってください。



リモコン（別売品）の取り付け

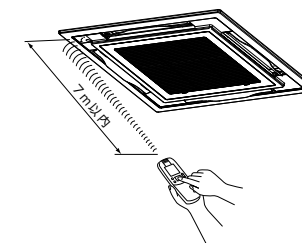
リモコンの取り付け方法は、リモコンに付属の取付説明書に従ってください。

- 直射日光の当たる所やストーブ等の近くに置いたり設置しないでください。

（ワイヤレスタイプ）

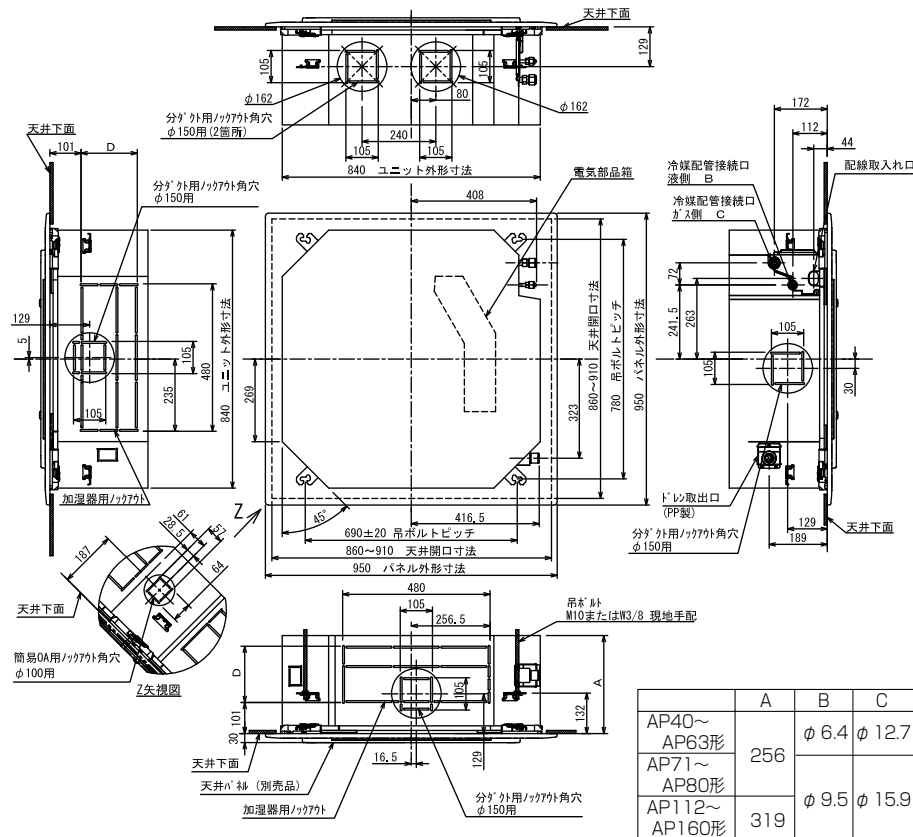
ワイヤレスタイプの受信距離は約7m以内です。リモコンを操作する位置と据付場所を決めてください。

- 誤作動防止のため、蛍光灯や直射日光の障害を受けない場所を選定してください。
- 同じ部屋に2台以上（6台まで）のワイヤレスタイプの室内ユニットを設置することができます。
- テレビやステレオ等の機器から1m以上離してください。（映像の乱れや雑音が入ることがあります）





- 梱包された室内ユニットの上に乗ったり、重置物を置いたりしないでください。
- 室内ユニットの搬入は、なるべく梱包したままで搬入してください。
- やむをえず、開梱して搬入する場合は、当て布等で傷を付けないようにしてください。
- 室内ユニットを移動させるときは、吊金具（4箇所）を持ち、その他（冷媒配管、ドレン皿、発泡部品、樹脂部品）に力を加えないでください。
- 運搬は2人以上でを行い、PPバンドなど所定位置以外での運搬はしないでください。
- 吊りボルトに防振材を入れる場合は、本体の振動が大きくなりしないことを確認のうえご使用ください。



	A	B	C	D
AP40~ AP63形	256	ϕ 6.4	ϕ 12.7	120
AP71~ AP80形				
AP112~ AP160形	319	ϕ 9.5	ϕ 15.9	183

- 室内ユニットと吊り下げたあとの配管・配線工事を考慮して、据付位置と方向を決定してください。
- 室内ユニット据付位置決定後、天井の開口と吊りボルトの設置を行ってください。
- 天井開口寸法と吊りボルトピッチは、外形図及び付属の据付用型紙に記載されています。
- 天井が既設の場合は、室内ユニットを吊り下げる前に配管・配線を接続する位置まで、ドレン配管・冷媒配管・室内外接続線・リモコン線を引いておいてください。

室内ユニット据え付け用の吊りボルトとナットは現地手配してください。

吊りボルト	M10またはW3/8	4本
ナット	M10またはW3/8	12本

据付用型紙は梱包キャップの内側にあります。

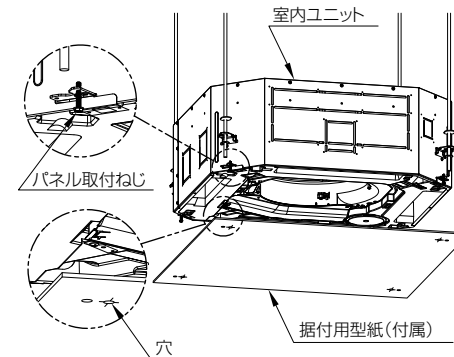
＜既設天井の場合＞

天井開口穴と吊りボルトの位置出しにご使用ください。

＜新設天井の場合＞

新設天井を張るときの開口穴の位置出しにご使用ください。

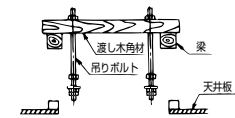
- 吊りボルト設置後、室内ユニットを取り付けてください。
- 室内ユニットのパネル取付ねじに据付用型紙の穴4ヵ所を押し込み固定してください。
- 天井を張るとき、据付用型紙の外寸に沿って開口してください。



- 建築の構造により異なるので、詳しくは建築、内装業者と相談してください。
- 天井板の取りはすし後の処理は、天井板の振動を防ぐための天井下地（骨組）の補強と既設天井の水平度を正しく保つことが重要です。
- 天井下地を切断撤去してください。
 - 天井下地切断面を補強し、天井板の端固定用の天井下地を追加してください。

吊りボルト（4本、現地手配）はM10またはW3/8を使用します。ピッチはユニット外形図の寸法に従い、既設構造に合わせて次の方法で取り付けてください。

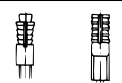
梁の上に角材を渡して吊りボルトを設置します。



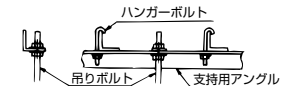
インサート金具、埋込ボルトなどで設置します。



ホールインアンカー、ホールインプラグ
またはホールインボルトを使用します。



アングルをそのまま利用するか、新規に支持用アングルを設置します。



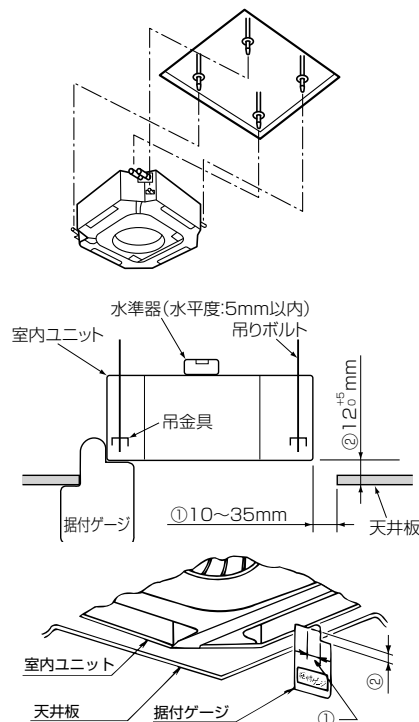
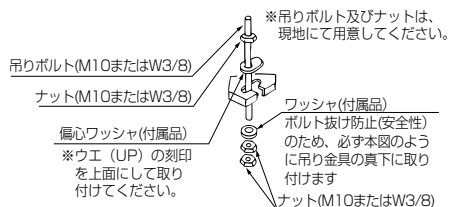
1 室内ユニットの据え付け (つづき)

室内ユニットの設置

- 吊りボルトに、ナット (M10またはW3/8: 現地手配) と付属のワッシャ (φ34) を付けてください。
- 室内ユニットの吊り金具のT溝に、ワッシャを上下に挟み吊り下げます。
- 四辺が水平になっているか水準器にて確認してください。(水平度: 5mm以内)
- 据付用型紙から付属の据付ゲージを切り離してください。
- 据付ゲージを使用して、室内ユニットと天井開口穴の隙間関係① (10~35mm四辺共通) および吊り下げ高さ② (12±5mm: 四隅) を確認し、調整してください。(据付ゲージに使用方向が印刷されています。)

お願い

室内ユニットを据え付ける前に、ファンとベルマウスを固定しているテープを必ず取りはずしてください。テープを取りはずさないで運転すると、ファンモータが故障する場合があります。



天井パネル(別売品)の取り付け

天井パネルは配管・配線工事が終了してから取り付けます。天井パネルの取り付けはパネルに付属の取付説明書に従ってください。室内ユニットと天井開口部の取り付け寸法が正しいか確認してから取り付けます。

お願い

天井パネルと天井面、および天井パネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れが生じて、結露・水漏れの原因になります。天井パネルを取り付ける前に、天井パネルのアジャストコーナーキャップ (四隅) をはずしてから室内ユニットに取り付けてください。また、アジャストコーナーキャップを元に戻す時は、ツメが確実にハマっていることを確認してください。※ツメがハマっていない箇所があると水漏れの原因となります。

2 ドレン配管

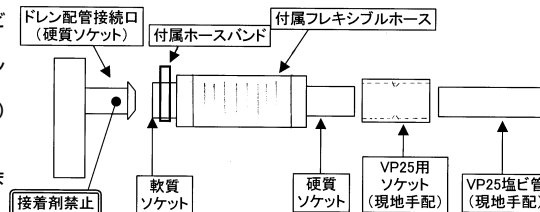
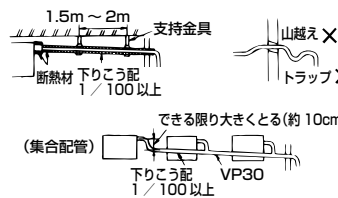
△ 注意

ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないよう断熱する配管工事に不備があると、屋内に水漏れし、家財などをぬらす原因になることがあります。



お願い

- 室内のドレン配管の断熱を確実に行ってください。
- 室内ユニットとの接続部も必ず断熱してください。断熱が不完全になると結露の原因になります。
- ドレン配管は下り勾配 (1/100 以上) とし、途中で山越えやトラップを作らないでください。異常音の原因になります。
- ドレン配管の横引きは 20 m 以下にしてください。配管が長い場合は、1.5 ~ 2 m 間隔で支持金具を設け、波打ちを防止してください。
- 集合配管は右図のように施工してください。
- エア抜き管は付けしないでください。ドレン水が吹き出し水漏れの原因となります。
- ドレン配管との接続部に力を加えないよう注意してください。
- 防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材 (パテ等) で埋めてください。
- 室内ユニットのドレン配管接続口に直接硬質塩ビ管を接続することはできません。ドレン配管接続口との接続には、必ず付属のフレキシブルホースを取り付けます。
- 室内ユニットのドレン配管接続口 (硬質ソケット) には、接着剤の使用はできません。必ず付属のホースバンドで固定してください。ドレン配管接続口の破損や水漏れの原因になります。



配管材料・断熱材およびサイズ

配管工事及び断熱処理には下記の材料を現地手配してください。

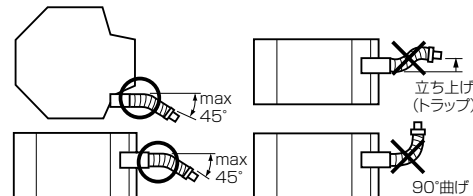
配管材料	硬質塩ビ管ソケット VP25 用
硬質塩ビ管	VP25 (外径φ32mm)
断熱材	発泡ポリエチレンフォーム 厚さ10mm以上

フレキシブルホースの接続

- 付属のフレキシブルホースの軟質側ソケットを室内ユニットのドレン配管接続口に突き当たるまで挿入します。
- 付属のホースバンドを配管接続口の端に合わせ、しっかり締めてください。

お願い

- 軟質側ソケットは付属のホースバンドで必ず固定し、締め位置を上側にしてください。
- 付属のフレキシブルホースは、折れ・詰まりが起こらないように角度は 45° 以下とし、使用してください。



ドレン配管の接続

- 取り付け付の付属のフレキシブルホースの硬質側ソケットに、硬質ソケット (現地手配) を接続します。
- 接続した硬質ソケットにドレン配管 (現地手配) を接続していきます。

お願い

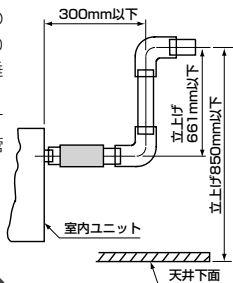
- 硬質塩ビ管の接続には、塩ビ用接着剤を使用し、水漏れのないよう確実に行ってください。
- 接着剤の乾燥硬化 (接着剤の取扱説明書を読んでください。) するまでに時間を要しますので、その間ドレン配管との接続部に力が加わらないようにしてください。

2 ドレン配管 (つづき)

ドレンアップ

ドレン配管に下り勾配が確保できないときは、ドレンアップができます。

- ドレンの配管の高さは、天井下面から850mm以下にしてください。
- ドレン配管は、室内ユニットのドレン配管接続口根元より300mm以下で取り出し、垂直に立ち上げてください。
- 垂直に立ち上げた後は、すぐに下り勾配になるよう配管してください。



排水の確認

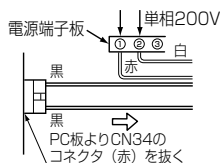
ドレン配管工事の完了後に、排水が行われることと配管接続部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。暖房期に据え付けの場合も必ず実施してください。

電気配線工事が完了している場合

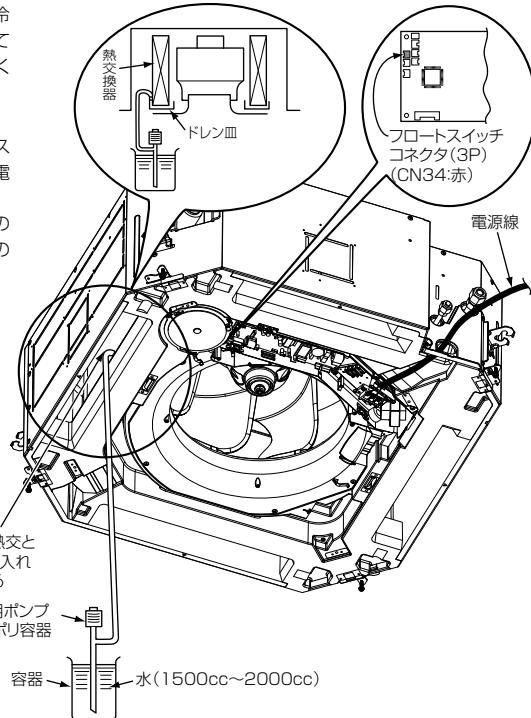
- パネルを取り付ける前に下図の方法にて注水してから、冷房運転しながらドレン配管接続口（透明）から排水されているか確認し、ドレン配管からの水漏れがないか確認してください。

電気配線工事が完了していない場合

- 電気部品箱のPC板のコネクタ（CN34：赤）からフロートスイッチコネクタ（3P：赤）を抜いてください。（このとき電源が切れていることを必ず確認してください。）
- 電源端子板の①、②に単相200Vを接続します。（端子板の③には絶対200Vを印加しないでください。PC板の故障の原因となります。）
- 右図の方法にて注水してください。（注水量1500cc～2000cc）
- 電源を入れると、自動的にドレンポンプが運転しますので、ドレン配管接続口（透明）から排水されているか確認し、ドレン配管からの水漏れがないか確認してください。
- 排水、水漏れ確認後、電源を切りフロートスイッチコネクタをPC板の元の箇所（CN34）に付け、電気部品箱を元に戻します。



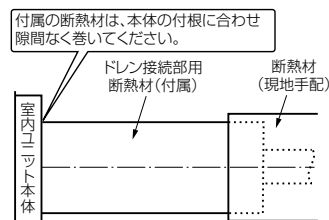
ホース先端を熱交とドレン皿の間に
下向きに曲げる
石油ストーブ用ポンプ
または注水用ポリ容器



容器 水(1500cc～2000cc)

断熱処理

- 排水確認後、付属のドレン接続部用断熱材を室内ユニットのドレン配管接続口付根よりフレキシブルホースを被うように隙間なく巻いてください。
- 付属のドレン接続部用断熱材に重ねるようにして、ドレン配管に断熱材（現地手配）を隙間なく巻いてください。



※断熱材のスリット部および合わせ目は天井面を向くようにしてください。

注意

水を注入するときはゆっくりと注入する
勢いよく注入すると、室内ユニットの内部に
散布され機器の故障の原因となります。



3 冷媒配管

警告

据え付け工事中に冷媒ガスが漏れた場合は
換気を行う
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガス
が発生する原因となります。



据え付け工事終了後、冷媒ガスが漏れてい
ないことを確認する
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒータ、ス
トープ、コンロなどの火気に触れると有毒
ガスが発生する原因となります。



お願い

冷媒配管が長い場合は、2.5～3m 間隔で支持金具を設け固定してください。配管を固定しないと異常音が発生する場合があります。
フレアナットは室内ユニット本体付属のもの、または R410A 用を必ず使用してください。

配管許容長さおよび許容落差

室外機により異なります。詳細は室外機に付属の据付説明書に従ってください。

配管材料およびサイズ

配管材料	空調用リン脱炭銅継目無管 (C1220T-O)		
機種名	AIU-	AP40 AP63形	AP71 AP160形
配管サイズ (mm)	ガス側	φ12.7	φ15.9
	液側	φ6.4	φ9.5

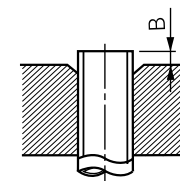
冷媒配管の接続

●フレア加工

- ①パイプカッターで配管を切断します。
バリは必ず取ってください。（ガス漏れの原因となります）
- ②フレアナットを配管に挿入後、フレア加工をします。
フレアナットは本体付属のもの、または R410A 用のものをご使用ください。
R410A 用のフレア加工寸法は、従来の R22 用とは異なります。R410A 用に新規に製作されたフレアツールをおすすめしますが、従来のツールでも下表の通り銅管の出し代を調整すれば、使用できます。

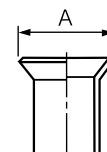
●フレア加工の銅管出し代：B（単位：mm）

銅管外径	リジッド（クラッチ式）の場合		インベリアル（ウイングナット）の場合
	R410A用ツール使用時	従来ツール使用時	
6.4	0～0.5	1.0～1.5	1.5～2.0
9.5			2.0～2.5
12.7			
15.9			



●フレア部加工寸法：A（単位：mm）

銅管外径	A ±0.4
6.4	9.1
9.5	13.2
12.7	16.6
15.9	19.7

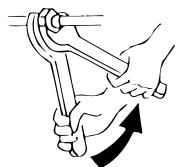


※従来のフレアツールを使って R410A 用のフレア加工をする場合は、R22 のときより約 0.5mm 多めにせせば規定のフレア寸法に加工できます。出し代の寸法調整は銅管ゲージを使用すると便利です。

フレア加工後、加工部に傷、切粉付着、変形、段差、扁平などが無いことを確認してください。

3 冷媒配管 (つづき)

- 封入ガスは大気圧しか封入されていないので、フレアナットをはずしたとき「プシュー」という音がしませんが異常ではありません。
- 室内ユニットの配管接続は必ずダブルスパンにて行ってください。



ダブルスパン作業

- 締付トルクは下表によってください。

接続配管外径(mm)	締付トルク (N-m)
φ 6.4	14 ~ 18
φ 9.5	34 ~ 42
φ 12.7	49 ~ 61
φ 15.9	68 ~ 82

フレア面への冷凍機油の塗布は行わないでください。

●フレア配管接続部の締付トルク

R410AはR22に比べ、圧力が約1.6倍と高くなります。従って、室内・室外の各ユニットを接続するフレア配管接続部は、トルクレンチを使用して規定の締付トルクで確実に締め付けてください。接続に不備があるとガスリークだけでなく、冷凍サイクル故障の原因にもなります。

お願い

トルクをかけ過ぎると、据付条件によってはナットが割れる場合があります。

エアパージ

真空ポンプを使用して、室外機のパルプのチャージポートから真空引きを行います。

詳細は室外機に付属の据付説明書に従ってください。

- 室外機に封入された冷媒を使ったエアパージは絶対にしないでください。

お願い

チャージホースなどのツールは、R410A 専用にて製作されたものを使用してください。

追加冷媒量

冷媒の追加は室外機に付属の据付説明書に従い、冷媒「R410A」を追加してください。

必ずハカリを使用して定量封入し、追加量は規定量を必ず守ってください。

お願い

- 冷媒の過剰封入や過少封入は、圧縮機の故障を引き起こす原因になります。必ず規定量を守ってください。
- 作業実施者は室外機のサービスパネルに貼り付けてある銘板に配管長さ追加冷媒量を必ず記入してください。圧縮機および冷凍サイクル故障時の原因究明に必要です。

バルブを全開に

室外機のバルブを全開にします。バルブの操作には4mmの六角レンチが必要です。

ガスリークチェック

リークディテクタや石けん水で配管接続部やバルブのキャップ部からガス漏れがないか確認します。

お願い

リークディテクタは、HFC 冷媒 (R410A,R134a など) 専用にて製作されたものを使用してください。

断熱処理

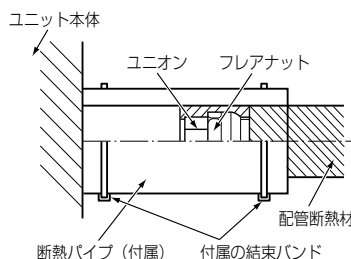
配管の断熱は液側とガス側の両方を行ないます。

- ガス側配管の断熱材は必ず耐熱温度120℃以上のものを使用してください。

- 室内ユニットの配管接続部の断熱は、付属の断熱材を用いて隙間なく確実に断熱処理してください。

お願い

断熱処理は室内ユニットの配管接続部付根まで露出がないよう確実に行ってください。(配管が露出していると、水漏れの原因となります。)
断熱材を巻く時はスリット部が天井面を向くように処理してください。



4 電気配線

警告

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。

アースを必ず取り付ける
法律による D 種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。

電気工事 (アース工事を含む) は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。

注意

漏電ブレーカーを取り付ける
漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電の原因になることがあります。

お願い

- 電源配線は所轄の電力会社の規定および電気設備基準に従って行ってください。
- 室外機の電源は各室外機の据付説明書に従って配線してください。
- 制御配線用端子板 [リモコン線接続部など] には 200V 電源を絶対に接続しないでください。(故障します)
- 電気配線は配管の高温部に接触しないようにしてください。被覆が溶け事故の原因となる場合があります。

電源仕様

配線およびリモコン線は現地手配となります。

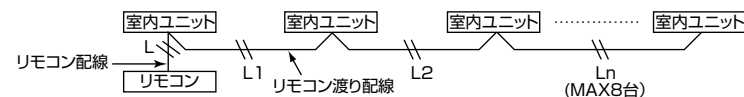
電源仕様は下表に従ってください。容量が小さいと過熱・焼損等の発生原因となり危険です。
室外機の電源容量および電源線の仕様は室外機に付属の据付説明書に従ってください。

機種 AIU-	電源 (50/60Hz)	アース線	室内外交渉線	室内電源渡り線 (ツイントリプルのみ)
AP40~AP56形	三相 200V 単相 200V	φ1.6mm	φ1.6mm×3本	φ1.6mm×2本
AP63形	三相 200V 単相 200V			
AP71~AP80形	三相 200V			
AP80形	単相 200V			
AP112~AP160形	三相 200V	φ2.0mm		

※記載の配線サイズは、最小サイズとなります。

リモコン配線とリモコン渡り配線 ※ご使用のリモコンによって異なります。

線種	RBC-AMT32の場合		RBC-AMS52の場合		
	VCTF:0.5mm2~2.0mm2×2				
リモコン配線 (通信線) と AC100V/200V の配線と直接接触させたり、同一電線管に収めることができません。ノイズ等により制御系統に異常が生じる恐れがあります。					
リモコン配線の総配線長 (L+L1+L2+...Ln)	1リモコン 500mまで	2リモコン 500mまで	ワイヤレスとの2リモコン 400mまで	1リモコン 500mまで	ワイヤレスとの2リモコン 400mまで
リモコン渡り配線の総配線長 (L1+L2+...Ln)	200mまで				



4 電気配線 (つづき)

8

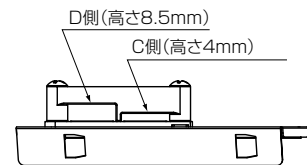
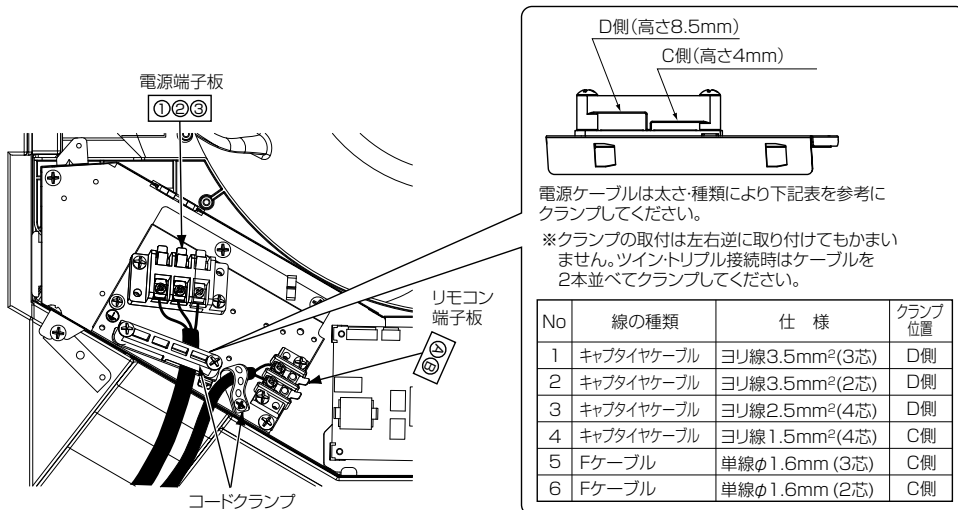
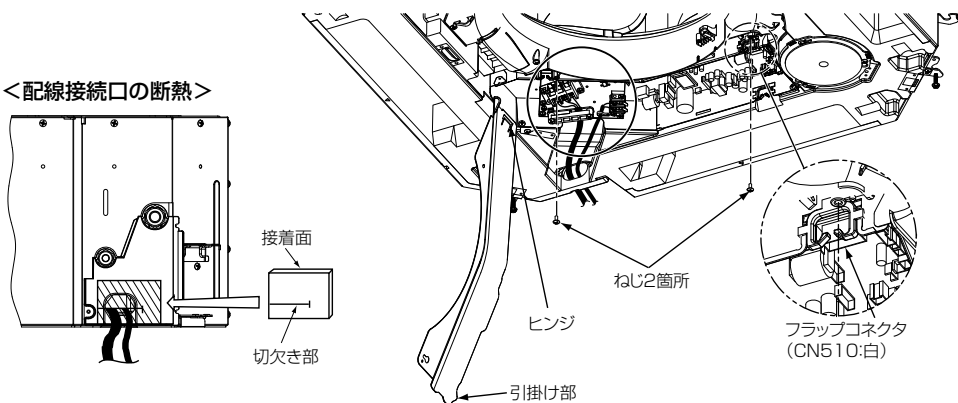
配線接続

お願い

- 室内外交続線は、必ず端子番号を合わせて接続してください。接続を正しく行いませんと故障の原因となります。
- 配線は、室内ユニットの配線接続口を必ず通してください。
- 電気部品箱をサービス等で吊り下げる場合がありますので、配線には余裕（約100mm）を持たせてください。
- リモコンの回路は低電圧回路です。内線規定400-8の小勢力回路の規定に従ってください。

- 電気部品箱のカバー取付けねじ（2箇所）をはずし、カバーを内側にスライドさせて引掛け部をはずします。
（電気部品箱カバーは、ヒンジに引掛けたままとします。）
- 電気部品箱の端子板に室内外交続線とリモコン線を接続します。
- 端子板のねじはしっかりと締め、電気部品箱に付属のコードクランプで配線を固定してください。
（端子板の接続部にテンションを掛けないようにしてください。）
- 付属の配線接続口シール用断熱材で、配線接続口をシールしてください。
（シールしないと結露の原因となります。）
- 配線を挟まないようにし電気部品箱のカバーを取り付けます。
（天井パネルの配線後にカバーを取り付けてください。）

<配線接続口の断熱>



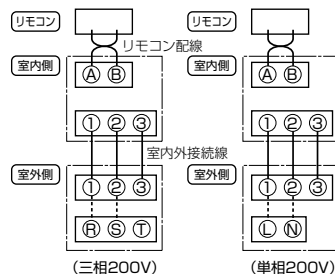
電源ケーブルは太さ・種類により下記表を参考にクランプしてください。

※クランプの取付は左右逆に取り付けてもかまいません。ツイントリプル接続時はケーブルを2本並べてクランプしてください。

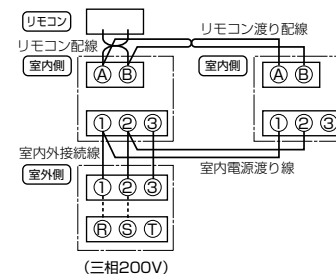
No	線の種類	仕様	クランプ位置
1	キャブタイヤケーブル	ヨリ線3.5mm ² (3芯)	D側
2	キャブタイヤケーブル	ヨリ線3.5mm ² (2芯)	D側
3	キャブタイヤケーブル	ヨリ線2.5mm ² (4芯)	D側
4	キャブタイヤケーブル	ヨリ線1.5mm ² (4芯)	C側
5	Fケーブル	単線φ1.6mm(3芯)	C側
6	Fケーブル	単線φ1.6mm(2芯)	C側

●配線図

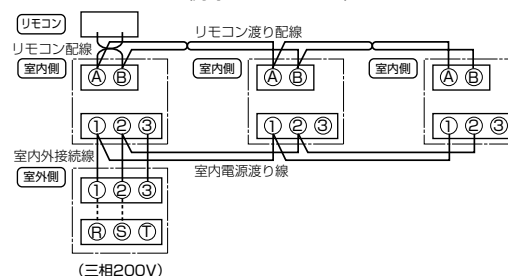
<シングルシステム>



<同時ツインシステム>



<同時トリプルシステム>



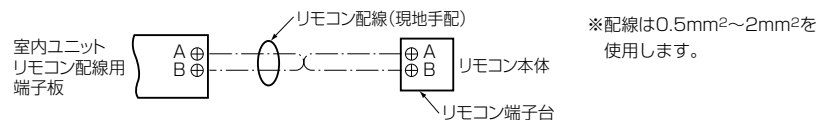
天井パネルの配線

天井パネルの取付説明書に従い、天井パネルから出ているコネクタ（20P：白）を電気部品箱のPC板のコネクタ（CN510：白）に接続します。

リモコンの配線

取り付け時には、リモコンの据付説明書もお読みください。

●配線図



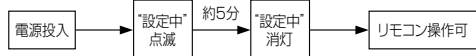
※配線は0.5mm²～2mm²を使用します。

5 応用制御

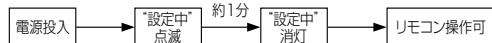
お願い

はじめてお使いの時は、電源が入ったあとリモコンが操作を受け付けるまで時間がかかりますが、故障ではありません。

〈据付後初回電源投入時〉リモコン操作ができるまで約 5 分かかります。



〈2 回目以降電源投入時〉リモコン操作ができるまで約 1 分かかります。



出荷時は、全て【標準（出荷時）】に設定されていますので、必要に応じて室内ユニットの設定を変更してください。

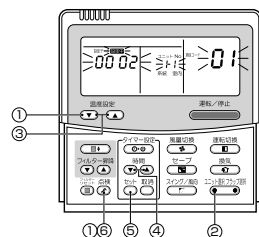
設定変更は、メインリモコン（ワイヤードリモコン）の操作によって行います。

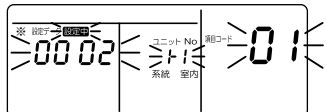
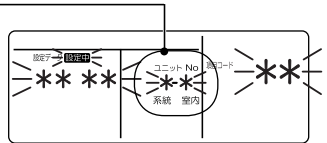
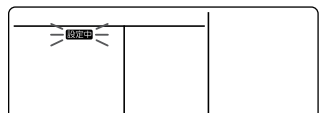
*ワイヤレスリモコン・サブリモコン・リモコンレスシステム（集中管理リモコンのみの場合）での設定変更はできませんので、メインリモコンを別途用意して取り付けください。

応用制御設定の切り換え

設定切り換えの基本操作手順

運転停止中に設定の変更を行います。
(セッとは必ず運転を停止させてください)



手順	操 作 内 容
①	<p>「点検」＋温度設定「▼」／「▲」ボタンを 4 秒以上同時に押すと、しばらくして表示部が図のように点滅します。</p> <p>表示された項目コードが [01] になって入ることを確認してください。</p> <p>●項目コードが [01] 以外の場合は、「点検」ボタンを押して表示を消し、最初からやり直してください。（「点検」ボタンを押した後、しばらくはリモコン操作を受け付けません）</p>  <p>(※室内ユニットの機種で表示が変わります)</p>
②	<p>「ユニット選択」ボタンを押すごとに、グループ制御内の室内ユニット No を順次表示しますので、設定を変える室内ユニットを選択します。</p> <p>このとき、選択された室内ユニットのファンが作動しますので設定変更する室内ユニットの位置を確認できます。</p> 
③	温度設定の「▼」／「▲」ボタンで、項目コード [**] を指定します。
④	タイマー時間の「▼」／「▲」ボタンで、設定データ [****] を選択します。
⑤	<p>「セット」ボタンを押します。このとき、表示が点滅から点灯になれば設定終了となります。</p> <p>●選択した室内ユニット以外のセットを変更したいときは、手順②から行います。</p> <p>●選択した室内ユニットの別の設定を変更したいときは、手順③から行います。</p> <p>「取消」ボタンを押すと、今まで設定した内容をクリアできます。この場合は、手順②からやり直しとなります。</p>
⑥	<p>設定が終了したら「点検」ボタンを押します。（設定が確定する）</p> <p>「点検」ボタンを押すと設定中が点滅しその後、表示が消え通常停止状態となります。</p> <p>（点検ボタンを押した後、設定中が点滅している間はリモコン操作を受け付けません）</p> 

別売フィルターを組み込む場合

別売フィルターを取り付ける場合は、必ず高天井設定をしてください。

※別売フィルターは、高天井への取り付けができません。

基本操作手順（①→②→③→④→⑤→⑥）に従って、操作してください。

●手順③の項目コードは、[5d] を指定します。

●手順④の設定データは、下記表から組み込むフィルターの設定データを選択します。

設定データ	0000	0001
高天井設定	標準フィルター （出荷時）	オイルガードフィルター 超ロングライフフィルター 光再生脱臭フィルター

設定データ	0003	0006
高天井設定	高性能フィルター(65%) 高性能フィルター(90%)	デオドラントフィルター アンモニア脱臭フィルター

高天井据え付けの場合

据え付ける天井の高さが標準を超える場合は、風量の調節が必要となりますので、高天井の設定をしてください。

●操作手順は「別売フィルターを組み込む場合」と同じです。

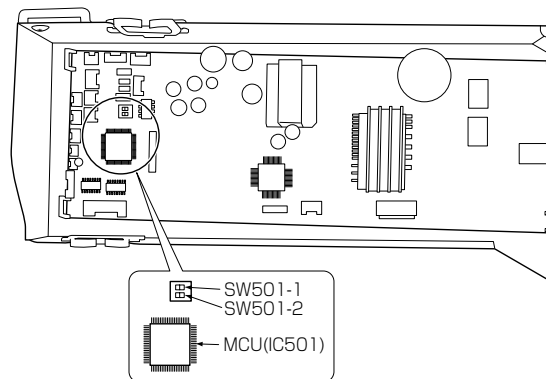
●手順④の「設定データ」は、本紙3ページの「据付可能天井高さ一覧表」より選択してください。

ワイヤレスリモコン使用の場合

高天井およびフィルターの設定はワイヤレス受信部基板のディップスイッチで切り換えてください。

くわしくはワイヤレスリモコンキットの説明書をご覧ください。また、下記表に示すように室内マイコン基板上のスイッチによる切換方法があります。

*ただし、一度切り換えますと0001、0003、0006の設定は自由にできますが、0000に戻すには、スイッチを標準（出荷時）位置にして、別売ワイヤードリモコンから設定データ0000へのデータ書き換え作業が必要となりますのでご注意ください。



出荷時の設定に戻すには
SW501-1、SW501-2ともOFFにした後、別売のワイヤードリモコンを接続し、本頁の“別売フィルターを組み込む場合の設定”で項目コード [5d] の設定データを 0000 にすることにより出荷時の設定に戻ります。

SW501-1	OFF	ON	OFF	ON
SW501-2	OFF	OFF	ON	ON
設定データ	0000 （出荷時）	0001	0003	0006

5 応用制御 (つづき)

10

フィルターサイン点灯時間の変更

据え付け条件に応じてフィルターサイン（フィルター清掃のおしらせ）が点灯する時間を変更することができます。
基本操作手順 ①→②→③→④→⑤→⑥ に従って操作します。

- 手順③の項目コードは [01] を指定します。
- 手順④の設定データは、右表から設定するフィルターサイン点灯時間の設定データを選択します。

設定データ	0000	0001	0002	0003	0004
フィルターサイン点灯時間	なし	150H	2500H (出荷時)	5000H	10000H

暖房効果をよりよくするために

室内ユニットの据付場所、部屋の構造などどうしても暖まりにくい場合には、暖房の検出温度を上げることができます。
また、サーキュレータなどを併用し、天井付近の暖かい空気を循環させてください。

- 基本操作手順 ①→②→③→④→⑤→⑥ に従って操作します。
- 手順③の項目コードは [06] を指定します。
- 手順④の設定データは、右表から設定する検出温度シフト値の設定データを選択します。

設定データ	0000	0001	0002	0003	0004	0005	0006
検出温度シフト値	なし	+1℃	+2℃ (出荷時)	+3℃	+4℃	+5℃	+6℃

グループ制御

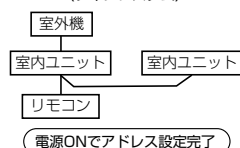
同時ツイン・トリプルの場合

室外機 1 台と組み合わせ、ツインでは 2 台、トリプルでは 3 台の室内ユニットを同時に ON/OFF 運転できます。

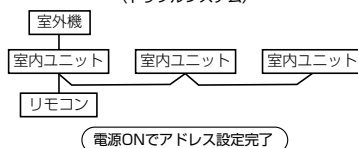
- 配線手順および配線は、本紙 7 ページの『電気配線』に従って行ってください。
- 電源投入時に自動アドレス設定に入り、“設定中” の表示が、表示部に点滅します。自動アドレス設定中は、リモコン操作を受け付けません。

自動アドレス終了までの所要時間は約 5 分です。

〈ツインシステム〉



〈トリプルシステム〉



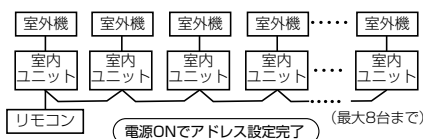
複数台システムのグループ制御の場合

リモコン 1 個で最大 8 台までグループ制御できます。

- 個々の系統（同一冷暖系統）システムの配線手順及び配線は、本紙 7 ページの『電気配線』に従って行ってください。
- 系統間の配線は次の手順で行います。
リモコンを接続した室内ユニットのリモコン端子板（A・B）から他の室内ユニットのリモコン端子板（A・B）に、リモコン渡り配線をそれぞれに渡らせて接続します。
- 電源投入時に自動アドレス設定に入り、“設定中” の表示が、表示部に点滅します。自動アドレス設定中は、リモコン操作を受け付けません。

自動アドレス終了までの所要時間は約 5 分です。

〈シングルシステムのグループ制御〉



注意

グループ制御のシステム構成によっては、自動アドレス設定後に手動によるアドレス変更を行う必要があります。
●アドレス変更が必要なシステム構成は、複数台のツイン・トリプルシステムが1つのリモコンでグループ制御されている複合システムの場合です。（11 ページ参照）

スイングの種類を設定するには

- 運転停止中に を長押し（4秒以上）する
設定中 が点滅します。
項目コードは「F0」が表示されます。
- （ボタン左側）を押して設定したいユニットを選択する
ボタンを押すたびにユニットNo.が変わります。
(例) ユニットNo. 1-1 → ユニットNo. 1-2 → ユニットNo. 1-3
→ ユニットNo. 1-4
表示なし
- 選択したユニットのファンが回転し、フラップがスイングします。
- タイマー設定の を押してスイングの種類を選択する



スイング設定コード	フラップの動き
0001	標準スイング(出荷時)
0002	デュアルスイング
0003	サイクルスイング

お願い

0000 の設定にはしないでください。
(フラップが故障することがあります。)

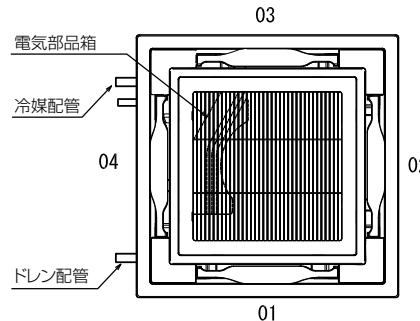
- を押す
- を押し設定を終了する

デュアルスイングとは

フラップ01と03、02と04が同じ向きで01と02が逆の動きをする。(01が下向きの時02は水平方向)

サイクルスイングとは

4枚のフラップがそれぞれ別のタイミングでスイングする。

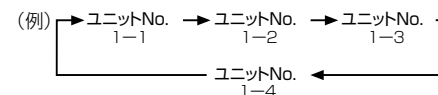


フラップロック(フラップ固定)の設定をするには

- 運転停止中に （ボタンの右側）を長押し（4秒以上）する
設定中 が点滅します。
項目コードは「F1」が表示されます。

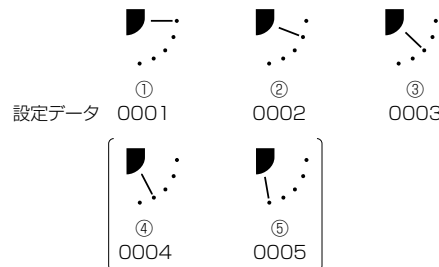
- （ボタンの左側）を押して設定したいユニットを選択する

ボタンを押すたびにユニットNo.が変わります。



選択したユニットのファンが回転し、フラップがスイングします。

- 温度設定 を押して、風向を固定させたいフラップのNo.を表示させる
- タイマー設定の を押してスイングさせたくないフラップの風向きを選択する

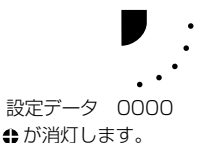


※④⑤を選択すると冷房時に結露する恐れがあります。

- を押して設定内容を確認する
設定が確定すると マークが点灯します。
- を押し設定を終了する

フラップロックを解除するには

フラップロック設定の風向き設定を 0000 にする



他の操作はフラップロック設定と同じです。

5 応用制御 (つづき)

セーブ運転の内容設定をするには

※複合システムでグループ制御を行っている場合は室外機ごとに設定する必要があります。

※ROA-AP***4H/4HS、ROA-HAP***1HS以前の室外機と組み合わせた場合、表示上の設定値は切り換わりますが、実際の運転は「75%固定」になります。

- 運転停止中に を長押し (4秒以上) する
設定中が点滅します。

項目コードは「C2」が表示されます。

- (ボタン左側) を押し設定したいユニットを選択する

ボタンを押すたびにユニットNo.が変わります。

(例) → ユニットNo. 1-1 → ユニットNo. 1-2 → ユニットNo. 1-3 → ユニットNo. 1-4

選択したユニットのファンが回転し、フラップがスイングします。

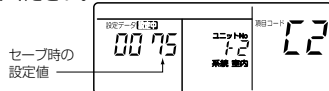
- タイマー設定の でセーブボタンを押した時の能力の設定値を決める

ボタンを1回押すたびに1%刻みで100%から50%の範囲で設定できます。

※出荷時の設定は75%になっています。

※運転状況によっては設定値まで下がらないことがあります。

※同一系統アドレスの室内ユニットは全てに同じ値を設定してください。



- を押して設定内容を確認する

- を押し設定を終了する

水平吹き風の風向切換をするには

- 運転停止中に + 温度設定の を長押し (4秒以上) する

設定中が点滅します。

項目コードは「01」が表示されます。

- (ボタン左側) を押し設定したいユニットを選択する

ボタンを押すたびにユニットNo.が変わります。

(例) → ユニットNo. 1-1 → ユニットNo. 1-2 → ユニットNo. 1-3

表示なし ← ユニットNo. 1-4

選択したユニットのファンが回転し、フラップがスイングします。

- 温度設定の ボタンを押して、項目コード「45」に変更する

- タイマー設定の で、風向設定を選択する

風向設定コード	風向設定
「0000」	スマッジング軽減ポジション (天井汚れ軽減風向) [出荷時]
「0002」	コールドドラフトポジション (冷気落ち抑制風向)

- を押して設定内容を確認する

点滅表示が点灯表示となり設定変更が確定します。

- を押し設定を終了する

※コールドドラフトポジションを選択した場合、天井汚れ軽減の効果は低下します。

リモコンスイッチモニタ機能

試運転中もリモコンからサービスモニタモードを呼び出し、リモコン、室内ユニット、室外機の各センサ温度を知ることができます。

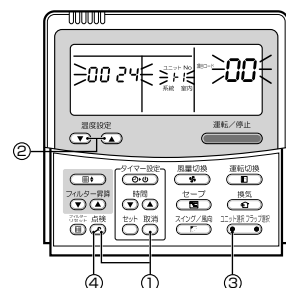
- ① と ボタンを同時に4秒以上押し、サービスモニタモードを呼び出します。

サービスモニタが点灯し、最初は親機の室内ユニットNo.が表示され項目コード00の温度が表示されます。

- ②温度設定の ボタンを押してモニタしたいセンサ等のNo. (項目コード) に変更します。(下記表参照)

- ③ (ボタン左側) を押し、モニタしたい室内ユニットに変更し、グループ制御内の室内ユニットとその室外機のセンサ温度をモニタします。

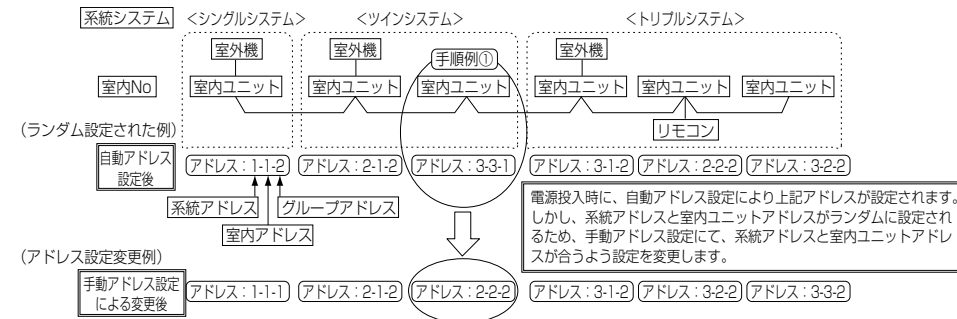
- ④ ボタンを押すと、通常の表示に戻ります。



項目コード	データ名
01	室温 (リモコン)
02	室内吸込温度 (TA)
03	室内熱交 (コイル) 温度 (TCJ)
04	室内熱交 (コイル) 温度 (TC)
F3	室内送風機積算運転時間 (×1h)
F8	室内吹出温度

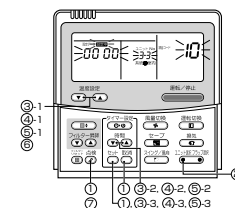
項目コード	データ名
60	室外熱交 (コイル) 温度 (TE)
61	外気温度 (TO)
62	圧縮機吐出温度 (TD)
63	圧縮機吸込温度 (TS)
64	—
65	ヒートシンク温度 (THS)
6A	運転電流 (×1/10)
F1	圧縮機積算運転時間 (×100h)

(例) 複合システムでのグループ制御



〈手続例①〉 自動アドレス設定の操作手順

運転停止中に設定の変更を行います。
(セッとは必ず運転を停止させてください)



手順	操作内容
①	「点検」 + 「セット」 + 「取消」 ボタンを4秒以上同時に押すと、しばらくして表示部が図のように点滅します。 表示された項目コードが「10」になって入ることを確認してください。 ●項目コードが「10」以外の場合は、「点検」ボタンを押して表示を消し、最初からやり直してください。(「点検」ボタンを押した後、約1分程はリモコン操作を受け付けません) (グループ制御の場合、最初に表示される室内ユニットNoが親機となります。) (※室内ユニットの機種で表示が変わります。)
②	「ユニット選択」ボタンを押すごとに、グループ制御内の室内ユニットNoを順次表示しますので、設定を変える室内ユニットを選択します。 このとき、選択された室内ユニットのファンおよびフラップが作動しますので、設定変更する室内ユニットの位置を確認できます。
③-1	温度設定の「▼」 / 「▲」 ボタンで、項目コード「12」を指定します。 (項目コード「12」: 系統アドレス)
③-2	タイマー時間の「▼」 / 「▲」 ボタンで、系統アドレス「3」 → 「2」にします。
③-3	「セット」ボタンを押します。 このとき、表示が点滅から点灯になれば設定終了となります。
④-1	温度設定の「▼」 / 「▲」 ボタンで、項目コード「13」を指定します。 (項目コード「13」: 室内アドレス)
④-2	タイマー時間の「▼」 / 「▲」 ボタンで、室内アドレス「3」 → 「2」にします。
④-3	「セット」ボタンを押します。 このとき、表示が点滅から点灯になれば設定終了となります。

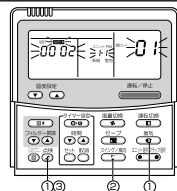
5 応用制御 (つづき)

〈手順例①〉手動アドレス設定の操作手順 (つづき)

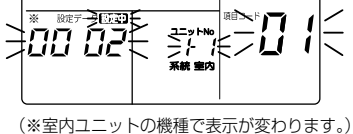
手順	操 作 内 容
⑤-1	温度設定の「▼」／「▲」ボタンで、項目コード〔14〕を指定します。 (項目コード〔14〕：グループアドレス)
⑤-2	タイマー時間の「▼」／「▲」ボタンで、設定データ〔0001〕→〔0002〕にします。 (設定データ〔親機:0001〕〔子機:0002〕)
⑤-3	「セット」ボタンを押します。 このとき、表示が点滅から点灯になれば設定終了となります。
⑥	その他に変更する室内ユニットがある場合は、続けて手順②～⑤を繰り返し設定変更を行います。 上記設定が終了したら、「室内ユニット選択」ボタンを押して設定変更前の室内ユニットNoを選択し、温度設定の「▼」／「▲」ボタンで、項目コード〔12〕、〔13〕、〔14〕と順に指定し、変更内容を確認してください。 アドレス変更確認 変更前：〔3-3-1〕→変更後：〔2-2-2〕 「取消」ボタンを押すと、設定中の内容を元に戻すことができます。
⑦	変更内容を確認したら「点検」ボタンを押します(設定が確定する)。「点検」ボタンを押すと、表示が消え通常停止状態となります。(点検ボタンを押すと「設定中」が点滅し、約1分程はリモコン操作を受け付けません) ●「点検」ボタンを押した後、1分以上経過してもリモコン操作を受け付けない場合は、アドレス設定を誤っていることが考えられます。この場合は、再度自動アドレス設定を行っていますので、手順①より設定変更をやり直してください。

室内ユニット No は分かるが、その室内ユニット本体の位置を知りたいとき

運転停止中に確認を行います。
(セットは必ず運転を停止させてください)



手順	操 作 内 容
①	「点検」＋「換気」ボタンを4秒以上同時に押すと、しばらくして表示部が図のように点滅し表示されます。 このとき、室内ユニットのファンおよびフラップが作動し、位置を確認することができます。 ●グループ制御の場合は、室内ユニットNoの表示が〔ALL〕と表示され、グループ制御内の全室内ユニットのファンおよびフラップが作動します。 表示された項目コードが〔01〕になっていることを確認してください。 ●項目コードが〔01〕以外の場合は、「点検」ボタンを押して表示を消し、最初からやり直してください。(「点検」ボタンを押した後、約1分程はリモコン操作を受け付けません)
②	グループ制御の場合、「ユニット選択」ボタンを押すごとに、グループ制御内の室内ユニットNoを順次表示します。 このとき、選択された室内ユニットのファンおよびフラップのみが作動し、位置を確認することができます。 (グループ制御の場合、最初に表示される室内ユニットNoが親機となります)
③	確認できたら「点検」ボタンを押して通常モードに戻ります。 「点検」ボタンを押すと、表示が消え通常停止状態となります。 (点検ボタンを押すと設定中が点滅し、約1分程はリモコン操作を受け付けません)



6 試運転

試運転の前に

- 電源を入れる前に、次のことを行ってください。
(1) 電源端子板とアース間を500Vメガーで計って1MΩ以上あることを確認します。
1MΩ未満のときは運転しないでください。
(2) 室外機のバルブが全開しているか確認してください。

- 起動時のコンプレッサ保護のために、電源を入れ12時間以上通電してください。
- 電磁接触器を押して強制的に試運転することは絶対にやめてください。(保護装置が作動しないため大変危険です)

試運転の方法

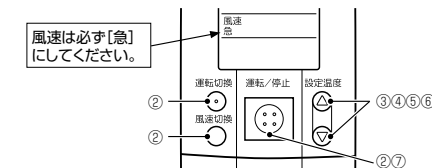
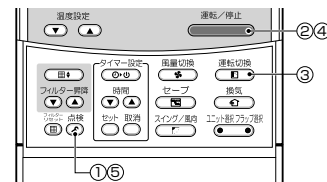
リモコンにて、通常操作で運転確認を行ってください。運転の手順は、付属の取扱説明書に従ってください。
室温がサーモOFFするような条件では、以下の手順にて強制試運転ができます。
強制試運転は、連続運転を防止するため、運転を60分経過すると試運転を解除し、通常運転に戻ります。

〔注〕強制試運転は、機器に無理が掛かりますので、試運転以外では使用しないでください。

ワイヤードリモコンの場合	
手順	操 作 内 容
①	「点検」ボタンを4秒以上押すと、表示部に〔試運転〕と表示され、試運転モードとなります。 (試運転中は表示部に〔試運転〕と表示されています)
②	「運転／停止」ボタンを押します。
③	「運転切換」ボタンで、運転モードを〔冷房〕か〔暖房〕にしてください。 ●〔冷房〕／〔暖房〕モード以外で使用しないでください。 ●試運転中は、温度調節はできません。 ●異常検出は、通常通り行います。
④	試運転を終了したら、「運転／停止」ボタンを押して運転を停止してください。 (表示部の表示が手順①と同じになります。)
⑤	「点検」ボタンを押して、試運転モードを解除してください。(表示部の〔試運転〕表示が消え通常停止状態となります。)

ワイヤレスリモコンの場合	
手順	操 作 内 容
①	エアコンの電源を投入してください。 据付後初回電源投入時は5分間、2回目以降電源投入時は1分間は運転操作を受け付けません。所定時間経過後に試運転を実施してください。
②	リモコンの「運転／停止」ボタンを押し、「運転切換」ボタンで運転モードを〔冷房〕か〔暖房〕に、「風速切換」ボタンで 風速を〔急〕 にしてください。
③	冷房試運転の場合 暖房試運転の場合 「設定温度」ボタンにて「18℃」にしてください。 「設定温度」ボタンにて「30℃」にしてください。
④	「ビッ」という受信音確認後直ちに、「設定温度」ボタンを押して「19℃」にしてください。 「ビッ」という受信音確認後直ちに、「設定温度」ボタンを押して「29℃」にしてください。
⑤	「ビッ」という受信音確認後直ちに、「設定温度」ボタンを押して「18℃」にしてください。 「ビッ」という受信音確認後直ちに、「設定温度」ボタンを押して「30℃」にしてください。
⑥	さらに手順④→⑥→④→⑥を実施してください。 約10秒程度にてワイヤレス受信部の表示ランプ「運転」(緑)・「タイマー」(緑)・「準備中」(黄)がすべて点滅し、運転します。もしランプが点滅しない場合には②以降の操作をやりなおしてください。
⑦	試運転終了したら、「運転／停止」ボタンを押して運転を停止してください。

〔ワイヤレスリモコンからの試運転操作の概要〕
冷房試運転：運転／停止→18℃→19℃→18℃→19℃→18℃→19℃
→18℃→(試運転)→運転／停止
暖房試運転：運転／停止→30℃→29℃→30℃→29℃→30℃→29℃
→30℃→(試運転)→運転／停止

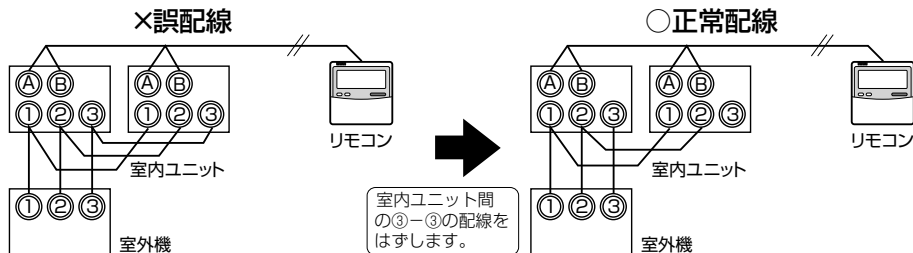


6 試運転 (つづき)

- 同時ツイン・トリプル・ダブルツインシステム（室外機が1台の場合）で点検コード「E18」が出た場合の対処方法
E18…室内ユニット間配線を誤って①-①、②-②、③-③と3本結線した場合に表示されます。

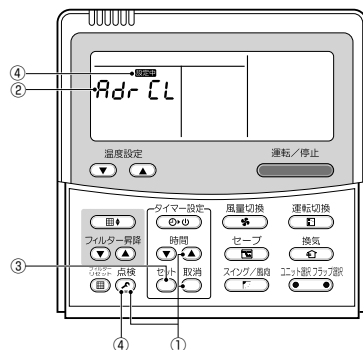
対処方法

- (1) 室内ユニット間の配線を正しく接続し直す。

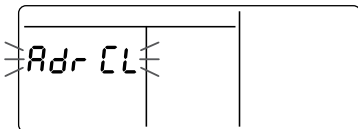


- (2) アドレスの再設定を行います。

- ① 「点検」 + 「取消」 + 「時間▲」を4秒以上同時に押す。

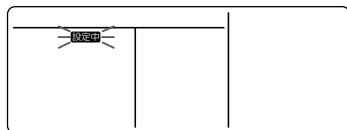


- ② 表示部に下図のように「Adr CL」が点滅



- ③ 「セット」を押すと「Adr CL」が点滅から点灯に変わります。

- ④ 「点検」を押すと「Adr CL」が消え、設定中が点滅します。(約5分かかります)

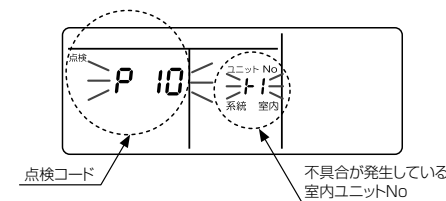


- ⑤ 設定中が消えれば再設定が完了し、正常に運転可能。

7 故障診断

確認と点検

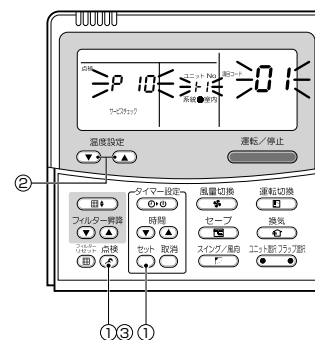
エアコンに不具合が発生した場合、リモコン表示部に点検コードと室内ユニットNoが表示されます。
点検コードは、運転中にのみ表示されます。
表示が消えてしまった場合は、下記の『故障履歴の確認』に従って操作し確認してください。



故障履歴の確認

エアコンに不具合が発生した場合、以下の手順で故障履歴を確認できます。(故障履歴は4つまでメモリされます。)
運転および停止状態のどちらからでも確認できます。

手順	操 作 内 容
①	<p>「セット」 + 「点検」 ボタンを4秒以上同時に押すと、しばらくして表示部が図のように表示されます。 表示部に「サービスチェック」が表示されると、故障履歴モードに入ったことを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目コードに、[01：故障履歴の順番]が表示されます。 ・点検に[点検コード]が表示されます。 ・室内ユニットNoに[不具合が発生した室内ユニットアドレス]が表示されます。
②	<p>温度設定の「▼/▲」ボタンを押すごとに、メモリされている故障履歴が順番に表示されます。 項目コードは、項目コード [01] (最新) ……項目コード [04] (一番古い) を示します。</p> <p>お願い</p> <p>[取消] ボタンを押すと、室内ユニットの故障履歴が全て消去されますので、押さないでください。</p>
③	確認できたら「点検」ボタンを押して通常表示に戻ります。



お願い

熱交換器の洗浄は必ず高圧水洗浄で行ってください。
強アルカリ性・強酸性等、洗浄力の強い市販洗浄剤を使用すると、熱交換器の表面処理が侵され、セルフクリーニング機能が低下する恐れがあります。
詳しくは、弊社営業部または、お買い上げの販売店にご相談ください。

7 故障診断 (つづき)

●点検コードと点検箇所

ワイヤード リモコン表示部	ワイヤレスリモコン 受信部表示ランプ	代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容	エアコン の状態
表示	赤点 緑点 黄点 点滅				
E01	● ● ●	リモコン親なし リモコン通信異常	リモコン	リモコンの誤設定…親リモコンが設定されていない場合 (含む2リモコン) 室内ユニットから信号が受信できない場合	*
E02	● ● ●	リモコン通信不良	リモコン	渡り線、室内PC板、リモコン…室内ユニットへの信号送信ができない場合	*
E03	● ● ●	室内・室外リモコン間 定期通信エラー	室内	リモコン、ネットワークアダプタ、室内PC板…リモコン及びネットワークアダプタから通信が 無い場合	自動復帰
E04	● ● ●	室内・室外リモコン間 IPDU-CDB間通信異常	室内	渡り線、室内PC板、室外PC板…室内・室外間シリアル通信に異常のある場合	自動復帰
E08	● ● ●	室内アドレス重複 ☆	室内	室内アドレス誤設定…自分と同じアドレスを検出した場合	自動復帰
E09	● ● ●	リモコン親重複	リモコン	リモコンアドレス誤設定…2リモコン制御で2台とも親に設定した場合 (★室内親は警告停止、子は運転継続)	*
E10	● ● ●	CPU間通信異常	室内	室内PC板…メイン・モーターマイコン間のMCU間通信が異常の場合	自動復帰
E18	● ● ●	室内ユニット親子間 定期通信エラー	室内	室内PC板…室内親子間の定期通信ができない場合、ツイン親(主機)子(従機)間の通信が できない時	自動復帰
E31	● ● ●	IPDU通信異常	室外	IPDU-CDB間の通信が異常の場合	全停止
F01	● ● ●	交互 室内ユニット 熱交センサ(TCJ)異常	室内	熱交センサ(TCJ)、室内PC板…熱交センサ(TCJ)のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F02	● ● ●	交互 室内ユニット 熱交センサ(TC)異常	室内	熱交センサ(TC)、室内PC板…熱交センサ(TC)のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F04	● ● ●	交互 室外機 吐出温度センサ(TD)異常	室外	室外温度センサ(TD)、室外PC板…吐出温度センサのオープン・ショートを検出した時	全停止
F06	● ● ●	交互 室外機 温度センサ(TE、TS)異常	室外	室外温度センサ(TE、TS)、室外PC板…熱交温度センサのオープン・ショートを検出した時	全停止
F07	● ● ●	交互 TLセンサ異常	室外	TLセンサの外れ、断線あるいはショートの可能性あり	全停止
F08	● ● ●	交互 室外機 外気温センサ異常	室外	室外温度センサ(TO)、室外PC板…室外気温センサのオープン・ショートを検出した時	運転継続
F10	● ● ●	交互 室内ユニット 室温センサ(TA)異常	室内	室温センサ(TA)、室内PC板…室温センサ(TA)のオープン・ショートを検出した場合	自動復帰
F12	● ● ●	交互 TS(1)センサ異常	室外	TS(1)センサの外れ、断線あるいはショートの可能性あり	全停止
F13	● ● ●	交互 ヒートシンクセンサ異常	室外	IGBTのヒートシンク部温度センサにて異常温度を検出した場合	全停止
F15	● ● ●	交互 温度センサ誤接続	室外	温度センサ誤接続の可能性あり(TEとTS)	全停止
F29	● ● ●	同時 室内ユニット 他の室内基板異常	室内	室内PC板…E2PROM異常の場合	自動復帰
F31	● ● ●	同時 室外PC板	室外	室外PC板…E2PROM異常の場合	全停止
H01	● ● ●	室外機 コンプレッサ コンプレッサ	室外	電流検出回路、電源電圧…電流リレー制御にてmin-Hz到達時、直流励磁以降の短絡電流 (Idc)検出など	全停止
H02	● ● ●	室外機 コンプレッサ	室外	コンプレッサ…コンプレッサのロックを検出した場合	全停止
H03	● ● ●	室外機 電流検出回路異常	室外	電流検出回路、室外PC板…AC-CTにて異常電流を検出した時、欠相を検出した時	全停止
H04	● ● ●	室外機 ケースサーモ動作(1)	室外	ケースサーモの動作異常	全停止
H06	● ● ●	室外機 低圧系異常	室外	電流、高圧スイッチ回路、室外PC板…Ps圧力センサ異常、低圧保護動作	全停止
L03	● ● ●	同時 室内ユニット親重複 ☆	室内	室内アドレス誤設定…グループ内に親機が複数存在する場合	全停止
L07	● ● ●	同時 個別室内ユニットにグループ 線あり ☆	室内	室内アドレス誤設定…個別室内ユニットにグループ接続室内ユニットが1台でもいる場合	全停止
L08	● ● ●	同時 室内グループアドレス未設定 点	室内	室内アドレス誤設定…室内アドレスグループ未設定の時	全停止
L09	● ● ●	同時 室内能力未設定	室内	室内ユニットの能力が未設定	全停止
L10	● ● ●	同時 室外PC板	室外	サービス用室外PC板ジャンパー設定違いの場合	全停止
L20	● ● ●	同時 LAN系通信異常	ネットワーク アダプタ集中管理	アドレス設定、集中管理リモコン、ネットワークアダプタ…集中管理系通信のアドレス重複	自動復帰
L29	● ● ●	同時 室外機 他の室外機異常	室外	その他室外機異常 1) IPDU-CDB間のMCU間通信が異常の場合 2) IGBTのヒートシンク部温度センサにて異常温度を検出した場合	全停止 全停止
L30	● ● ●	同時 室内ユニットへの外部異常入 力あり(インターロック)	室内	外部機器チェック、室外PC板…CN80外部異常入力で異常停止	全停止
L31	● ● ●	同時 相順異常 その他	室外	電源相順、室外PC板…三相電源の相順が異常の時	運転継続 (サーモOFF)
P03	● ● ●	交互 室外機 吐出温度異常	室外	吐出温度リレー制御にて異常を検出した場合	全停止
P04	● ● ●	交互 室外機 高圧系異常	室外	高圧スイッチ、IOLが動作した場合・TEによる高圧リレー制御にて異常を検出した時	全停止
P05	● ● ●	交互 欠相検出	室外	電源線の接続不良が考えられます。電源の欠相、電圧のチェックをしてください。	全停止
P07	● ● ●	交互 ヒートシンク過熱異常	室外	IGBTのヒートシンク部温度センサにて異常温度を検出した場合	全停止
P10	● ● ●	交互 室内ユニット 漏水検出	室内	ドレンパイプ、排水詰り、フロートスイッチ回路、室内PC…排水系異常、フロートスイッチが動 作した場合	全停止
P12	● ● ●	交互 室内ユニット室内ファン異常	室内	室内ファンモータ、室内PC板…室内DCファンの異常(過電流・ロック等)を検出した場合	停止

ワイヤード リモコン表示部	ワイヤレスリモコン 受信部表示ランプ	代表故障箇所	検出	点検箇所と故障内容	エアコン の状態
表示	赤点 緑点 黄点 点滅				
P15	● ● ●	交互 ガスリーク検出	室外	配管および接続部でガスがリークしている可能性があるため、ガスリークのチェックを 行なう。	全停止
P19	● ● ●	交互 四方弁異常	室外 (室内)	四方弁チェック、室内温度センサ(TC、TCJ)チェック…暖房時室内熱交センサの温度 低下により異常を検出した場合	全停止 (自動復帰)
P20	● ● ●	交互 高圧保護動作	室外	高圧保護	全停止
P22	● ● ●	交互 室外機 室外ファン異常	室外	室外ファンモータ、室外PC板…室外ファン駆動回路にて異常(過電流・ロック等)を 検出した時	全停止
P26	● ● ●	交互 室外機 インバータIdc動作	室外	IGBT、室外PC板、インバータ配線、コンプレッサ…コンプレッサ駆動回路素子 (G-Tr IGBT)の短絡保護動作が働いた場合	全停止
P29	● ● ●	交互 室外機 位置検出異常	室外	室外PC板、高圧スイッチ…コンプレッサモータの位置検出異常を検出した時	全停止
P31	● ● ●	交互 他の室内ユニット異常	室内	グループ内部の他の室内が警報中の場合 E03/L07/L03/L08警報	自動復帰

○:点灯、●:点滅、●:消灯 ☆:この時は自動的に自動アドレス設定へ移行する。
交互:点滅LEDが2個あるときの点滅状態が交互 同時:点滅LEDが2個あるときの点滅状態が同時

8 室内ユニット設定確認

お客様に引き渡す前に、今回の据え付けた室内ユニットのアドレス及び設定を確認し、チェックシート（下表）に記入してください。チェックシートは4台分の記入ができますので、据え付けたシステムがグループ制御システムの場合は、他の室内ユニットに付属の据付説明書に分けてシステムごとと記入して、ご使用ください。

お願い

据え付け後のメンテナンスとして必要ですので、必ず記入をしてお客様に本据付説明書をお渡しください。

室内ユニット設定チェックシート

室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット		
形名			形名			形名			形名		
室内ユニットのアドレスを確認してください。（確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。）*シングルシステムの場合は、アドレスは記入不要です。 (項目コード系統[12]、室内[13]、グループ[14])											
系統	室内	グループ	系統	室内	グループ	系統	室内	グループ	系統	室内	グループ
各種設定			各種設定			各種設定			各種設定		
室内ユニットの高温井設定を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし]に、変更した場合は変更した[項目]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。)											
高温井設定(項目コード[5d]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高温井①「0001」 <input type="checkbox"/> 高温井③「0003」 <input type="checkbox"/> 高温井⑥「0006」			高温井設定(項目コード[5d]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高温井①「0001」 <input type="checkbox"/> 高温井③「0003」 <input type="checkbox"/> 高温井⑥「0006」			高温井設定(項目コード[5d]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高温井①「0001」 <input type="checkbox"/> 高温井③「0003」 <input type="checkbox"/> 高温井⑥「0006」			高温井設定(項目コード[5d]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高温井①「0001」 <input type="checkbox"/> 高温井③「0003」 <input type="checkbox"/> 高温井⑥「0006」		
フィルターサイン点灯時間を変更しましたか。未実施の場合は[変更なし]に、変更した場合は変更した[項目]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。)											
フィルターサイン点灯時間 (項目コード[01]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H「0004」			フィルターサイン点灯時間 (項目コード[01]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H「0004」			フィルターサイン点灯時間 (項目コード[01]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H「0004」			フィルターサイン点灯時間 (項目コード[01]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H「0004」		
検出温度シフト値を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし]に、変更した場合は変更した[項目]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、本紙の応用制御を参照してください。)											
検出温度シフト値設定 (項目コード[06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし「0000」 <input type="checkbox"/> +1℃「0001」 <input type="checkbox"/> +2℃「0002」 <input type="checkbox"/> +3℃「0003」 <input type="checkbox"/> +4℃「0004」 <input type="checkbox"/> +5℃「0005」 <input type="checkbox"/> +6℃「0006」			検出温度シフト値設定 (項目コード[06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし「0000」 <input type="checkbox"/> +1℃「0001」 <input type="checkbox"/> +2℃「0002」 <input type="checkbox"/> +3℃「0003」 <input type="checkbox"/> +4℃「0004」 <input type="checkbox"/> +5℃「0005」 <input type="checkbox"/> +6℃「0006」			検出温度シフト値設定 (項目コード[06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし「0000」 <input type="checkbox"/> +1℃「0001」 <input type="checkbox"/> +2℃「0002」 <input type="checkbox"/> +3℃「0003」 <input type="checkbox"/> +4℃「0004」 <input type="checkbox"/> +5℃「0005」 <input type="checkbox"/> +6℃「0006」			検出温度シフト値設定 (項目コード[06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> シフトなし「0000」 <input type="checkbox"/> +1℃「0001」 <input type="checkbox"/> +2℃「0002」 <input type="checkbox"/> +3℃「0003」 <input type="checkbox"/> +4℃「0004」 <input type="checkbox"/> +5℃「0005」 <input type="checkbox"/> +6℃「0006」		
別売品組込み			別売品組込み			別売品組込み			別売品組込み		
下記別売品を組み込みましたか。組み込んだ場合は各[項目]に「レ」印を付けてください。 (組み込み時に設定切換が必要な場合があります。設定切換方法は、各別売品に付属の取付説明書を参照してください。)											
パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル (項目コード[30]) <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル (項目コード[30])			パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル (項目コード[30]) <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル (項目コード[30])			パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル (項目コード[30]) <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル (項目コード[30])			パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル (項目コード[30]) <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル (項目コード[30])		
フィルター <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(65%) <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(90%) <input type="checkbox"/> オイルガードフィルター <input type="checkbox"/> デオドラントフィルター <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> アンモニア脱臭フィルター <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルター			フィルター <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(65%) <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(90%) <input type="checkbox"/> オイルガードフィルター <input type="checkbox"/> デオドラントフィルター <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> アンモニア脱臭フィルター <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルター			フィルター <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(65%) <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(90%) <input type="checkbox"/> オイルガードフィルター <input type="checkbox"/> デオドラントフィルター <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> アンモニア脱臭フィルター <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルター			フィルター <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(65%) <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(90%) <input type="checkbox"/> オイルガードフィルター <input type="checkbox"/> デオドラントフィルター <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> アンモニア脱臭フィルター <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルター		
<input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> その他()			<input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> その他()			<input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> その他()			<input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> その他()		

9 フロン回収破壊法による冷媒充填量記載のお願い

- 設置工事時の追加冷媒量、総冷媒量、冷媒の二酸化炭素換算値および設置時に冷媒を充填した事業者名を配線図表示板の追加冷媒記録欄に記入してください。
- 総冷媒量は、出荷時の冷媒量と設置時の追加冷媒量の合計値を記入してください。出荷時の冷媒量は「装置銘板」に記載された冷媒量です。
- 二酸化炭素換算値は、総冷媒量に2.09トンを掛け算した値です。



SN:EH99858801-C

東芝キャリア株式会社
〒416-8521 静岡県富士市蓼原336番地

